



# 福岡公民館だより 10月号



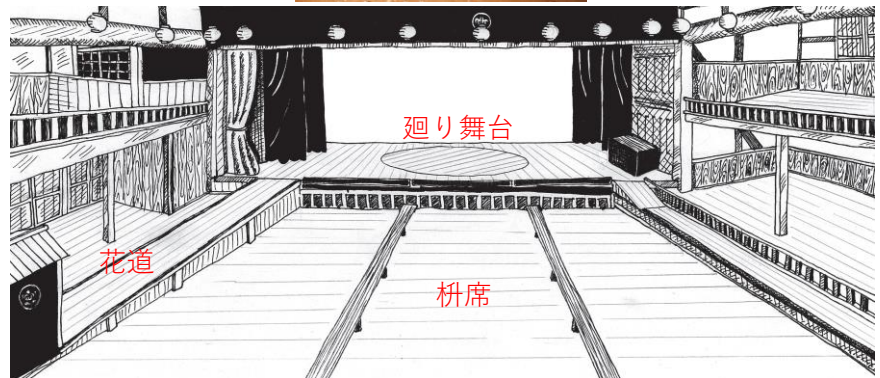
発行：ふくおかまちづくり協議会 福岡公民館 TEL72-2144

## 常盤座ってどんな所？

- ① 常盤座は、中津川市高山の常磐神社の前にある。今から130年前の明治24年（1891年）につくられた芝居小屋。祭りの行事や旅芝居、地芝居などが行われる地域の娯楽の中心的存在。旧福岡町には、他に南宮座(田瀬)、大盛座(下野)、菅原座(福岡)が存在していた。
- ② 常磐神社は「磐」、常盤座は「盤」の字を使う。「石」と「皿」の違い。神社と同じ名をいただくのは申しわけないということ、人が多く集まる場所という意味で「皿」を用いた。
- ③ 戦時下では軍事倉庫として利用されたため、歌舞伎は中止となるが、戦後の昭和22年（1947年）に、地元の強い意志により芝居小屋として復元された。
- ④ 毎年3月最終日曜日に常盤座歌舞伎保存会の定期公演が開催されている。平成6年（1994年）からは地歌舞伎の継承を目的として「常盤座子ども歌舞伎教室」を開催し、毎年同じ日に発表会が行われている。
- ⑤ 平成8年（1996年）に「平成の大改修」が行われ、升席や廻り舞台も復元し、復活した。



廻り舞台の下部



- ⑥ 近年では、歌舞伎以外の催しものも多く、芸能祭、演劇フェスティバル、和太鼓コンサート、日本舞踊発表会、演劇公演など多種多様な催しものが開催されている。
- ⑦ 毎月第1日曜日は常盤座開放日となっており、常盤座保存会の方々が説明などを行っている。（午前9時～午後4時）
- ⑧ 観光バス『常盤座見学ツアー』も年間を通して受け入れている。（現在は、コロナ禍で来館はありません。）
- ⑨ 平成21年（2009年）に「岐阜県の宝もの」に【東濃の地歌舞伎と芝居小屋】として認定されている。

現在は、指定管理制度で「ふくおかまちづくり協議会」が管理運営を行っています。  
是非一度、昔ながらの芝居小屋『常盤座』へお出かけ下さい。

## 『ふくおかの偉人』シリーズ

ふくおか地域には、多くの偉人の方がおられ、田瀬・下野・福岡・高山 4 地区で大きな偉業を成し遂げられています。今後も公民館だよりで紹介していきます。

### 加藤(かとう)景廉(かげかど)ってどんな人？

- ① 伊豆国の修善寺町牧之郷に館を構える。
- ② 源頼朝が伊豆で平家討伐のため挙兵するときからの側近。
- ③ 頼朝から長刀を授かり、伊豆国の目代、平兼隆の館の夜襲、全国での平家追討の戦いなど数々の戦功を挙げる。
- ④ 頼朝が鎌倉幕府を開いてから、美濃国遠山荘（中津川市・恵那市・瑞浪市の一部）の地頭に任ぜられる。その他、伊豆国狩野荘をはじめ6ヶ国10荘の地頭に任ぜられる。
- ⑤ 頼朝の死後は、鎌倉幕府に仕える。



「為当地主加藤次景廉公立之」と彫られた碑が、植苗木にある。遠山氏祖加藤景廉を偲んで建立されたものか？

三界万霊塔

< 来年のNHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」は、頼朝の子の2代将軍頼家を補佐する13人の物語。主人公は、鎌倉殿の13人の一人の北条義時（頼朝の妻・政子の弟） >

- ⑥ 加藤景廉は、鎌倉殿の13人の人物と対等であったと思われる。なぜなら、鎌倉殿の13人のうちの北条時政、北条義時、梶原景時、和田義盛、比企能員などの人物と親交があったから。
- ⑦ 梶原景時の謀反の時、景時は滅ぼされる。加藤景廉は景時と親しかったため一時地位を失うが頼家の義父の比企能員と北条時政が対立した時は、時政に従い、能員の嫡男を討ち取る。（2代将軍頼家に代わって、頼家の弟の実朝が3代将軍に）
- ⑧ 将軍実朝の警護役だったが実朝が頼朝の子の公暁に暗殺される事件の責任をとり出家。
- ⑨ 承久の乱では北条泰時が兵を挙げるが宿老の一人として鎌倉に残る。  
その年他界する。（68歳）
- ⑩ 加藤景廉の死後、遠山荘は、景廉の子の景朝が継ぎ、遠山荘の地名をとって、遠山景朝となり、岩村城に住む。以後、この地域の遠山家の先祖となる。

R3年度 福岡公民館講座 ふくおかの偉人講座より

## 新刊情報

読書の秋ですね～

- 対になる人 [花村 萬月]
- 新謎解きはディナーのあとで [東川 篤哉]
- 星落ちて、なお [澤田 瞳子]
- 風よ僕らの前髪を [弥生 小夜子]
- 水を縫う [寺地 はるな]
- なぜ秀吉は [門井 慶喜]
- はじめての果樹の育て方 [高橋 栄治]
- ラナの世界へ [ディーン・ニコルソン]
- 生理で知っておくべきこと [細川モモ]
- 育児やることリスト大全 [ninaru baby]
- 10年かかって地味ごはん。[和田 明日香]
- ニュース探偵コナン3 [青山 剛昌]
- 山火事のサバイバル1 [ポドアルチング]
- ふうせんとはりねずみ [新井 洋行]
- ぼくとがっこう [谷川 俊太郎]
- お月さんのシャーベット [ペク・ヒナ]
- パンダツアー [のほな はるか]